



NP市長へ下田市からの記念品を贈呈
(土屋典康氏作の白磁徳利)

昭和60年に開催された第2回ニューポート黒船祭に3人の市民団の一員として参加して以来、市長として4回目のニューポート訪問となりました。今回は中学生4人を含む14名の下田市訪問団を結成し、7月13日、最初の訪問先ニューヨークへ旅立ちました。ニューヨークでは激しい雷雨のため他の空港に待機着陸というハプニングもあり、予定より3時間遅れでの到着となりました。14日、グリーンウッド墓地へ、タウンゼント・ハリスの



トーロ公園でのワークショップ
(花の風車作り)

17日は山口啓子さんの案内でフェアヘブンへ。1841年、14歳の日本の若者が嵐に会い、無人島へ漂流。捕鯨船ホイットフィールド船長に救出され、アメリカに住んだ初の日本人となった「ジョン万次郎」が居住していた場所です。昨年再建されたホイットフィールド船長家では、フレンドシップ・ソサエティーのルーニー理事長が流ちょうな日本語で詳しく説明をしてくれました。帰路、万次郎の関係資料が収蔵されている「ミレセント図書館」に立ち寄りました。このゲストブックには9年前に訪問した我々のサインがあるので閲覧を要望したところ、奥から持ってきてくれました。現天皇・皇后陛下が皇太子時代の「昭仁」美

ニューポート市を訪ねて

下田市長 石井直樹



下田市訪問団(NP市庁舎前にて)

昭和60年に開催された第2回ニューポート黒船祭に3人の市民団の一員として参加して以来、市長として4回目のニューポート訪問となりました。今回は中学生4人を含む14名の下田市訪問団を結成し、7月13日、最初の訪問先ニューヨークへ旅立ちました。ニューヨークでは激しい雷雨のため他の空港に待機着陸というハプニングもあり、予定より3時間遅れでの到着となりました。14日、グリーンウッド墓地へ、タウンゼント・ハリスの

墓参をしましたが、2年前の訪問時あったハナミズキの木は枯れてしまったのか切られていました。ハリスが創設したニューヨーク市立大学ではリサ・コイコ新学長ら多くの関係者に迎えられ交流会に出席、毎回お世話になるシドニー・バンノート教授の案内で「遣米使節団ニューヨーク訪問150周年記念展」が開催されているニューヨーク市立博物館を見学、貴重な資料を見る機会を得ました。15日昼にチャーターバスで

ニューポートへ。「オーシャンクリフ」での市長主催の夕食会ではナポリターノ市長・バイナー・ロードアイランド州日米協会会長夫妻をはじめ多くの旧知の方々の歓迎を受け、いよいよニューポートでの交流の始まりです。16日、式典前に市役所を訪問。市長室には「江波路子氏作・海藻おしぼ」「増田二夫氏作・版画」「土屋典康氏作陶・壺」等数年来、下田市から贈られた品が飾られ、交流の深さを感じながら今年も土屋典康氏からお預かりした「白磁徳利」をプレゼントいたしました。ホームステイしている中学生も合流し、ニューポート砲兵中隊の祝砲により開会された第27回黒船祭式典は、我々来賓の祝辞のあと、持参した「来年はぜひニューポートを訪問したい」という川勝知事のメッセージが全文、バイナー会長より披露された大きな拍手がおきました。夜の晩餐会はニューポートに数多くあるマンションのひとつ「ローズクリフ」で多くの招待者を迎え盛大に開催されました。豪華な雰囲気とアメリカ方式パーティーを楽しみました。

姉妹都市ニューポート市でのホームステイに参加された皆さんの感想を紹介します

7月13日(火)から20日(火)までの8日間、中学生4名と引率教諭がニューポート市の民間の方のお宅にホームステイし、異文化に直接触れる貴重な体験をしました。



ホームステイに参加された皆さん
(トーロ公園ペリー提督像前にて)

◆加藤 大さん (稲生沢中学校)
僕は、このホームステイの旅でとてもうれしかったことが一つあります。それは、自分の話した英語が現地の人に通じたことです。最初、英語を話すことが恥ずかしくてなかなか自分の言いたいことが言えませんでした。当然日本語が通じる訳もなく、思い切つて言葉に出しました。その葛藤の中で出た僕の英語が相手に通じた瞬間、なんとも言えない気持ちになりました。これからもこの経験をもとに、自分の気持ちを積極的に伝えていきたいです。

◆岡 歩乃歌さん (下田中学校)
私は今回ニューポート市を訪問し、アメリカの人々とその国に感動しました。例えば、表情の豊かさや気の大きさ、堂々とした同世代の子たち、青々広がる芝生、愛国心の強さなどです。また、出会った人は皆「自分」をしっかり持つ

◆土屋慶悟さん (稲梓中学校)
文化・言語が全然違うのでコミュニケーションがとれるか不安でしたが、ホームステイ先の方々がわかりやすい英語を使ってくれたのでその不安も徐々になくなりました。ニューポートの町はとてきれいで、特にニューポートブリッジが印象に残っています。ニューポートで過ごした日々は、一日が長く早く感じ

◆進士彩香さん (下田東中学校)
「ありがと」日本ではこんな当たり前に使われている言葉さえ、ニューポートに行けば、「THANK YOU」となってしまいます。そんな小さなことでも私は不安で仕方ありませんでしたが、ホームステイ先の方々はわかりやすい英語でコミュニケーションをとってくれました。もっとコミュニケーションがとれるよう英語を勉強し、この様な機会がありましたらぜひ参加したいです。

◆梶原義明教諭 (下田中学校)
姉妹都市ニューポート市へ、下田市の中学校4校の代表生徒と無事訪問することができました。中学生たちにとっては初めての海外への訪問で、最初のうちは緊張している様子でしたが、大学や高校を訪問したり、ホームステイ先の家族と接するうちに、積極的にニュー



ホームステイ先の人たちと一緒に
(ペリー墓前祭にて)

ポート市の人たちにも進んで話しかけられるようになりました。また、中学生は現地の黒船祭でのワークショップでも、和風作りや風車作りなど積極的に現地の子供たちに教え、日本の文化や下田の紹介をしてきました。今回の訪問を通し、中学生の積極的に交流を図ろうとする姿勢や文化紹介が、国際親善において重要であることを強く感じました。また、訪問先では多くの方々から歓迎され、手厚くおもてなしをいただき、そのような姿勢も国際交流において大切であることを学びました。来年の黒船祭では、ニューポート市からの訪問団を感謝とお礼の気持ちでお迎えしたいと思います。